

モデル経営体名：塩原 久充（本庄市）

展開：露地野菜の産地の強化に係る展開

経営概要 8.6ha（ねぎ：2ha、ブロッコリー：2.5ha、キャベツ：1.5ha、レタス：2ha、その他0.6ha）
うち実証面積 ねぎ2ha

導入技術①直進アシスト機能付きトラクタと複合作業機の組み合わせ・井関農機株式会社・トラクタRTS25ZGQ
②ほ場・環境モニタリングシステム・ITbookテクノロジー株式会社・みまわり伝書鳩2圃場監視向け

①



ねぎ：耕うん+溝切



緑肥作物：播種+除草剤



太陽熱消毒：耕うん+マルチ

②



親機



子機

実証の状況

① 実証の目的

- ・ねぎの生産安定に必要な輪作・土づくり等の軽労化への取組
 - ・ねぎ栽培期間中の気象および土壌環境のモニタリングで病害虫防除作業の可視化を目指す。
- 効率的な作業計画・従業員の人材育成への活用

② 実証状況：

○ねぎ溝切(2畝同時) +定植作業

溝底が耕うんされ、ひっぱり君が引きやすい。直進中は操作の必要がないので、スタッフが作業できるようになった。
慣行よりも35%省力化できた。

○太陽熱消毒

作業性が良くなり、除草効果も確認できた。

○ねぎ栽培期間中の気象及び土壌環境のモニタリング

気温は熊谷及び寄居気象台データのほぼ中間を経過した。降雨後、土壌含水率はデータ上1日のタイムラグで上昇した。

③モデル経営体の感想：

隣の列を走行するときに畝間が変わってしまうと土寄せ時に土が上がりにくいので、ラインマーカーを上手に活用したい。
等間隔ピッチとなるようGPS機能で音が鳴るようにできないか
モニタリングデータの活用では、病害虫の発生は問題にならなかったため収集にとどまっている。

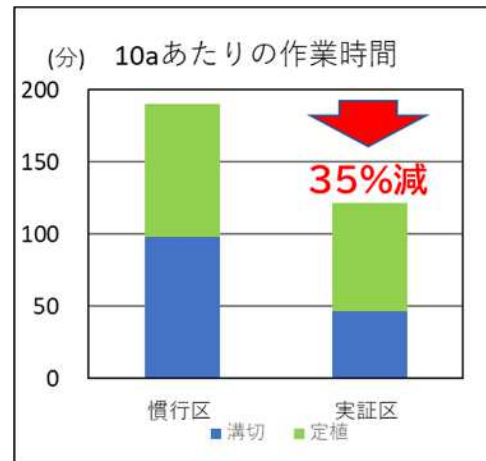


表 ねぎ溝切+定植作業時間の低減状況

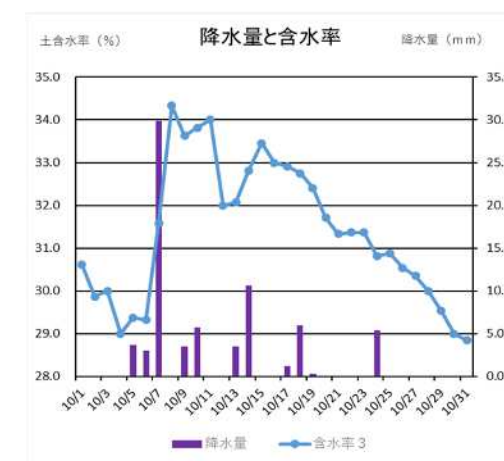


図 ねぎほ場におけるモニタリング結果一部抜粋 (R4. 10)